2013年度 白山麓実習プロジェクト レポート

総合政策学部の学生8名は、弊社、金沢庭材株式会社グループ（リサーチ･コンソーシアム会員）と連携し、8月21日～26日、5泊6日の日程で2013年度白山麓実習を実施した。

この実習は、昨年度定年退職された久野武教授（現名誉教授）のゼミ実習として2010年度に始まったものだが、現在は後任の佐山浩教授を責任教員とし、佐山ゼミから5名、今井ゼミ･ヘファナンゼミ･細見ゼミから各1名の学生が参加している。

過去3年間の経緯を辿ると、1年目に石川県白山ろくテーマパーク（都市公園･広域公園）の活性化策を提案、2年目には1年目で提案した園芸福祉イベント『キッズ☆すくすく園芸体験』を公園指定管理者と協力して行った。昨年3年目は、白山手取川ジオパーク（日本ジオパーク認定）のPRと地域教育を目的に、クイズラリーやポスター作製を盛込んだワークショップ『始動！白峰探検隊』を白山市観光推進部ジオパーク推進室と協働で実施した。

こうした迎えた今年度の4年目の実習は、
①イベント『あいラブ白山♡我らジオパーク新聞社』の実施
②政策提案『白山ろくテーマパークの花壇を活用したオキナグサ保護への提案』の発表
を目玉企画に据えてスタートした。いずれも会場は白山ろくテーマパーク公園センターの屋内ホールである。

①のイベント（8月23日）は、ジオパークの啓発を目的に、学生が白山市内の子ども向け（小学生高学年）に計画、白山手取川ジオパーク推進協議会主催『子どもジオ博士』認定プログラムの最終3日目に組まれた。内容は3日間の復習を兼ね、子ども達が学生のリードのもとでジオパークの活かし方を考え、壁新聞に記載するというもの。

白山手取川ジオパークは、地質遺産の保全や観光推進だけでなく、合併新設都市である白山市の一体感醸成が大きな政策目的になっており、学生は「イベントを通して子ども達にジオパークへの愛情（ジオパーク＝白山市）を育んでほしい」と意気込んだ。参加した子ども達20名と学生、白山市職員、地元紙の記者らを交えて活況の内にイベントは進み、子ども達への満足度調査では、全員が「(同様のイベントに) 再度参加したい」と回答した。また、地元紙では写真入りで大きく取り上げられ、ジオパークのPRにも貢献出来たと考えている。イベント後には、地元住民から「来年度はジオパークと“食”を繋ぐような活動をお願いしたい」といった要望が伝えられた。確かに、自然豊かな山麓に住む子ども達は身近にジオを感じることが出来るが、平野の住宅地に住む子ども達はそうはいかない。しかし、“食”とジオとの関係を学べば、平野の子ども達にも容易にジオを感じてもらうことが出来るのではないか。そういうことで、来年度は地元の主婦の皆さんが協力を惜しまないとのこと。ここに学生がどんな計画を持ち込むか、楽しみである。

②の政策提案（8月25日）は、過去3年の白山麓実習を知る地元住民から「盗掘が問題となっている手取峡谷のオキナグサの保護について考えて欲しい」と依頼を受けて挑戦したものである。学生は「オキナグサ保護に住民がどう関わるか」を問いとして、その方法を探るべく、石川県白山自然保護センターの担当専門員、山野草保護に取組む市民団体代表、峡谷に近い吉岡地区区長、地元の染色作家など、関係者への取材を敢行し提案をまとめた。この取材の過程で浮き彫りとなったのは、自生地をめぐる行政と住民の間の「不信」と「不満」である。自然保護センター専門員は、住民に対し「峡谷に降りている人を見かけたら通報して欲しい」としながらも「盗掘リスクを増幅するため詳細な自生地は教えられない」との立場である。一方で住民は「自生地を詳細に教えてくれればパトロールしやすい。教えられないと言うのは住民を信頼していないからか」と不満を露わにする。学生は双方の立場の違いに苦悩しながらも、白山ろくテーマパーク内の花壇にオキナグサを移植し、これを活用して自然保護センターが住民を指導、オキナグサや法令に関する一定の

知識を身につけた住民には自生地を公開して積極的にパトロールに参加してもらうというシステム（マイスター制度）を提案した。この他、園内花壇のオキナグサを環境教育に活用する、また花壇で増殖した場合は、苗を販売、希少価値を低下させて盗掘リスクを減退させることや、販売収益を次の保護活動に充当する案などを発表した。

この政策提案発表会には、自然保護センター職員や白山市のジオパーク推進室職員、白山ろくテーマパーク職員、金沢庭材株式会社社員、さらに地元住民らを合わせて約 50 人が集まった。質疑応答では、区長が自然保護センター職員を前に「信頼していないのか」と発言、これを学生がフォローする一幕もあった。しかし、発表会後の懇親会では自然保護センター職員と区長、市民団体代表が談笑する場面が見られ、その意味では、行政・住民間の距離を今回の政策提案発表が縮めることとなった。なお、実習を終えて帰阪した後、自然保護センターから「(学生が提案した）マイスター制度導入に向けて検討に入る。今後も協力して欲しい。」とメールがあった。学生の提案が実現するということは素晴らしいが、これにより来年度も白山麓実習は手取峡谷のオキナグサ保護に関わることとなった。より実社会に近いところで活動できることに、学生、指導者とも感謝しつつ、強い責任感で臨まなければならない。

8 月 25 日の政策提案発表会後には地元関係者との懇親会が開催された。佐山教授や久野名誉教授、それに実習卒業生が 6 名も参加して 30 人を越える盛会となった。卒業生が毎年多く参加してくれることは、この実習から何かしら学びを得てくれた証だと感じている。一企業の社員として、指導、引率出来る範囲は限られるが、こうした卒業生の再訪、温かい応援は実習継続への励みになる。同時に、白山麓実習開始から 4 年間、弊社、また実習を引率する筆者は、白山麓に関わる自治体職員や住民とかけがえのない絆を紡ぐことが出来た。地元密着型の企業において名声は貴重な資産である。企業人としては「奇貨居くべし」のスタンスで、今後も白山麓実習プロジェクトを主宰していきたい。

2013 年 9 月 2 日
株式会社クロス クリエイティブ コア
（金沢庭材株式会社グループ）
代表取締役　野畠 章吾

ジオパークの魅力 児童が壁新聞に

白山手取川ジオパーク推進協議会のイベント「子どもジオパーク博士」の最終日は23日、白山市の白山ろくテーマパーク吉岡園地などで行われ、市内の小学4～6年生19人がジオパークの魅力を紹介する壁新聞を作り、博士として認定された。

児童は、白山自然保護センター中宮展示館を見学後、バスでジオパークを巡った。水の旅をテーマにした同ジオパークの感想を書き、A1判の模造紙に貼り付け、壁新聞を仕上げた。大学の授業で白山麓を訪れている関西学院大総合政策学部の学生8人が手伝った。

昨年から認定が始まった子どもジオパーク博士は、これで29人となった。

よう、2010年に実施したコンテストで入賞品のレシピも付。悟事務局長はどんを食べてま躍してほしい」。

JA白山の種子乾燥施設竣工

JA白山の河内種子乾燥施設の竣工式は23日、白山市河内町江津の同施設で行われ、自治体や地元生産組合の関係者ら30人が新しい営農施設の完成を祝った＝写真。

1981（昭和56）年建設の乾燥施設が老

ジオへの愛 壁新聞に

白山手取川 小学生が"取材"

白山市の白山手取川ジオパークの魅力を伝える壁新聞づくりのワークショップ「あいラブ白山我らジオパーク新聞社！」が23日、白山ろくテーマパーク吉岡園地（河内町吉岡）であった。（谷知佳）

白山麓に実習で訪れている関西学院大総合政策学部の学生たちが、地域貢献の一環で企画した。白山手取川ジオパーク推進協議会が主催するイベントも兼ね、海から山までジオの貴重な地質遺産を三日間かけて見学した市内の小学四～六年生十八人が総仕上げとして取り組んだ。

鳥越小五年の広川彩友里さんのアイデアで「ジオ博士新聞」と題したグループは、ジオの生かし方として、白山手取川ジオのキャラクター「ゆきママとしずくちゃん」をあしらった菓子作りやジオ祭りの開催を提案した。

菓子、祭りの提案も

さらに、千代野小四年の平野杏佳さんや東明小四年の安田鈴香さんが、手取川の美しさや力強さを「水はスカイブルー」「大きな岩に穴をあけるなんてすごい」と紹介した。

ほかのグループの河内小六年の井口咲さんは、ジオへの思いを「たくさんの人に知ってもらうのが大切」「ずっときれいな自然をこわさないようにすればいいと思います」などとしたためた。

完成した壁新聞は、市内の公共施設に展示される予定。

白山手取川ジオパークの魅力を伝える壁新聞を発表する子どもたち＝白山市河内町吉岡で

住民の積極的な参加など

白山―オキナグサ保護へ政策提案

関西学院大学総合政策学部白山麓実習プロジェクトチームは25日、白山市の白山ろくテーマパークで、白山麓のオキナグサ保護に関する「政策提案発表会」を、開催した＝写真。

この発表会は、今年で4年目となる白山麓実習（5泊6日）の一環。今年度は「白山ろくテーマパーク指定管理者の岸グリーンサービス、白山麓実習を援助している金沢庭材の社員ら約50人が集まった。

手取峡谷のオキナグサは、13年現在163株が確認（石川県自然保護センターによる）されているが、一部の愛好家らによる盗掘が度々問題となってきた。石川県では「ふるさと石川の環境を守り育てる条例」に基づき、盗掘への罰則規定を設けているものの、自生地近くの住民がオキナグサ保護にどのように取り組むかが今後の課題になっている。

意見交換では、「オキナグサの自生地が公表されれば、住民が積極的にパトロールに参加できる」や「ジオパーク推進の一環としても、オキナグサ保護に取り組むべき」などといった意見が出され、議論を交わした。

学生の指導は、関西学院大学総合政策研究科リサーチ・コンソーシアム（産官学民研究協力機構）に所属する野畠章吾氏（クロス・クリエイティブ・コア）が行い、石川県自然保護センターや金沢庭材が協力した。野畠氏は「このプロジェクトがモデルケースとなり、様々な学生活動を白山麓に誘致出来れば、『学生が集う白山麓』という新たな魅力の創出が期待できる」と話していた。

きょう4件を公示

三井IC橋外予備設計など

整備局金沢

北陸地方整備局金沢河川国道事務所は28日付で、次の業務4件について簡易公募型競争入札の手続き開始を公示する。いずれも参加表明書の提出期限は9月4日まで。

▽能越道　輪島道路三井IC橋外2橋予備設計業務

業務内容は、最適橋梁形式とその基本的な橋梁諸元を決定することを目的とする予備設計。履行期限は14年2月28日まで。

▽平成25年度用地調査等業務単価契約（建物等）その2

業務内容は、緊急を要する用地調査等業務（建物等）について単価契約により実施する業務。履行期限は、14年3月31日まで。

4日に開札実施

野田山墓地架橋設計

新聞記事、上段左 2013.8.24 北國新聞朝刊
上段右 2013.8.24 北陸中日新聞朝刊
下段 2013.8.28 北陸建設工業新聞朝刊